

台湾でおしゃれなカフェが増える訳

● 放眼日中 ●



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

毎年11月に台北で開かれている珈琲茶酒展に昨年も行ってみた。台湾といえばウーロン（烏龍）茶だと思っっている方も多いかもしれないが、今の主流はお茶ではなく、明らかにコーヒーだ。その展示スペースはお茶の3倍以上。酒も人気はあるが、コーヒーが圧倒的なスペースを占めていると言っただけではない。

そして各ブースを回ってみても、お茶はおとなしい感じで、酒は華やかな雰囲気があるが、何といてもコーヒーには活気があり、ブースにいたるのも、客として来るのも、若者が非常に多い。まさに産業として勢いがあるな、と思ってしまう程、若い力が押し寄せていた。

台北の街を歩いていると、今やドリンクスタンドは欠かせない。日本円で1杯200円ぐらいで好きな飲み物を買って、友達と歩きながら楽し

そうに飲んでいる。その飲み物は、コーヒーより茶飲料が主流を占めており、日本の緑茶や抹茶入りドリンクも意外と人気がある。

ドリンクスタンドと並んで、4〜5人が座れる程度の小さく、ちよつとおしゃれなカフェも最近非常に目に付くようになった。料金もスターバックスなどよりはだいぶ安く、質料の高い台北でも低コストで売り上げを伸ばしているように見える。ほんのひと時の休息を、ほんの少しせいたく、という雰囲気です。従来コンビニのイートインコーナーでペット飲料や缶コーヒーを飲んでいた層を取り込んでいるように思える。

また、もうちよつと立派なカフェも急激に増えている。こちらは立地の良い場所に、綺麗な内装と明るい店舗などを基調に、高級感とカジュ

アル感の中間に行く感覚で出店されている。ケーキなどスイーツ類もこだわりがあり、またラテアートなど若い女性が好みそうな品ぞろえとなっている。カフェラテ一杯が日本円で500〜600円はするので、決して安いとは言えない。それほど客が入っているように見えない店もあり、人ごとながら経営は大丈夫なのかと心配になってしまう。

知り合いの台湾人に「なんでこんなにカフェが増えたんだ。それほど台湾人はコーヒー党になったのか」と質問していると、意外な答えが返ってきた。「台湾の若者にはこれまでITなどが格好良い職業として見えてきたが、今や陰りが見えてきている。それでも汗水たらして働くより、屋内で格好良くしたいから、コーヒー屋さんになるんだよ」と言うのではないのか。

そして「台湾は政権交代後の2年程、本当に景気が悪く、若者に職がないんだ。それは親も分かっており、子どもが小商いをしたいと言えば、余裕があれば資金を出す。ただ、バーなど酒を出す店ではいろいろなトラブルで悪い噂も聞かすが、コーヒー屋さんで悪い噂はないので、選ぶならこっちになるんだよ」と付け加えた。

なるほど、だから簡易な店舗やフランチャイズ店が多いし、どう見てもオーナーの知り合いばかりが集まっている店をよく見掛けるわけだ。もうけることを前提としているわけではなく、どちらかと言えば景気回復待ちのカフェ。台湾は11月の地方選で与党が惨敗した。これから中国に少し近づき経済が回復、カフェは減っていくシナリオになるのだろうか。